感じ取った自然事象への気づきを自分の言葉で表現できる言語活動のあり方

第１学年生活科「かぜであそぼう　～おおぞらたかくあがれ！ぼく・わたしのたこ～」

佐賀支部　勧興小学校　教諭　阿久根康太郎

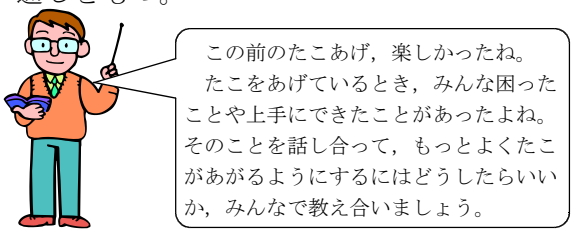
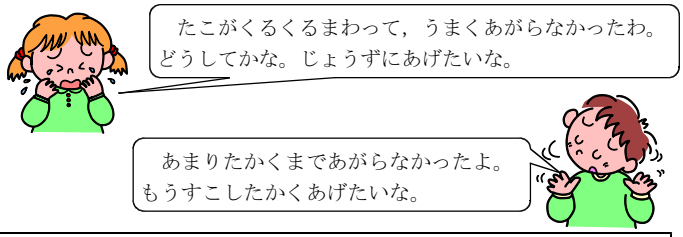
１　単元計画（本時４／６）

時	主な学習活動	教師の手立て（下線部は取り入れた言語活動）
1	ビデオレターを見て，学習の意欲と見通しをもつ。	・科学博士からのビデオレターを見せることで，たこづくりとたこあげに意欲をもたせる。
2	たこをつくる。	・おもり（しっぽ）はつけないなど，必要最小限の材料でたこをつくらせる。
3	１回目のたこあげをする。	・たこあげをする中で，困ったことや上手にできたことを考えさせ，４時目の活動につなげる。
4 本時	**どのようにしたら，たこがよくあがるかを考えたり話し合ったりし，自分の「上手なたこあげのコツ」を考える。**	**・（言語活動①）自分の考えや聞いたことについて，グループで教え合ったり，全体で話し合わせたりさせる。** **・（言語活動②）「上手なたこあげのコツ」を，（言語活動①）をもとに考えさせる。** **・上手にたこがあがっている様子をビデオで見せ，考えるヒントにさせる。**
5	考えたり話し合ったりしたことを生かして，２回目のたこあげをする。	・４時目に考えたり話し合ったりしたことを意識させて，たこを改良させたりあげ方を工夫させたりする。
6	たこあげポスターをかき，たこあげのコツを紹介する。	・（言語活動③）自分が考えた「上手なたこあげのコツ」はどうだったかというふり返り，たこあげができてうれしかったことや楽しかったことなどの感想を，ポスターにかかせる。

２　本時の目標

１回目のたこあげの経験や考えの交流活動，ビデオ映像を通して，どのようにしたらたこがよくあがるか考え，あげ方のコツを表現することができる。（活動や体験についての思考・表現）

３　授業の実際

児童の学習活動や主な反応（ゴシック体は言語活動）	具体的な指導（ゴシック体は言語活動のポイント）
１．１回目のたこあげをふり返り，本時の見通しをもつ。  	○本時の活動に意欲をもたせるために，「もっとよくたこをあげたい。」という意識を高めさせた。 
じょうずな　たこあげの　コツを　みんなに　おしえてあげよう	
２．自分で考えたり，家の人や友だちから聞いたりした「上手なたこあげのコツ」を，ワークシートに書く。	○話し合い活動を活性化させるために，コツをたくさん書ける人がすばらしいことを伝え，活動に取り組ませた。また，自分で考えたことを㋕，家の人や友だちから聞いたことを㋖とマーク付けさせた。

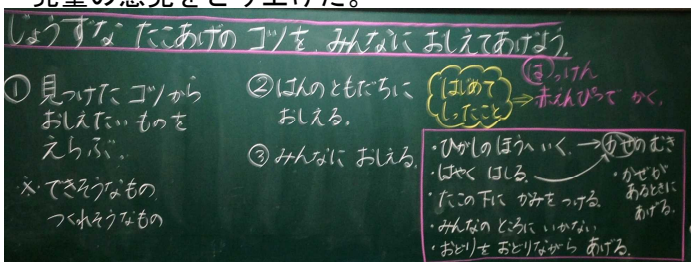
３．ワークシートに書いたことを，グループで教え合ったり全体で話し合ったりして，「上手なたこあげのコツ」をまとめる。（言語活動①）

じょうずにたこをあげるコツをおしえます。
一つ目は，たこにかぜがあたるように，はしります。二つ目は，たこの下に，かみをつけます。・・・

なるほど，そうかあ。

○自分の意見を発表しやすいように，発表の話型を示し，それをもとに発表させた。

○たこあげのコツに気づかせ，学習活動４に生かさせるために，友だちの発表から出てきた，初めて知ったことは，ほ（発見）として赤鉛筆でワークシートに書かせた。また，全体での意見の交流で，「風の向き」「おもり（しっぽ）」について考えている児童の意見をとり上げた。

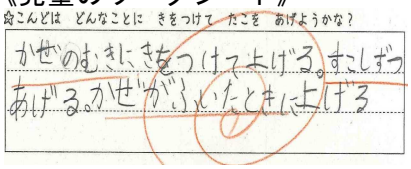


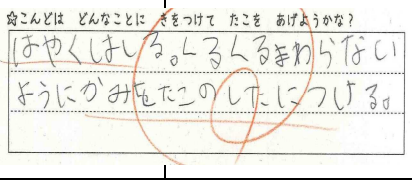
風（吹いているとき，向き，起こすために走る）やしっぽ（おもり）のことを考えてたこをあげると，上手にたこがあがる。

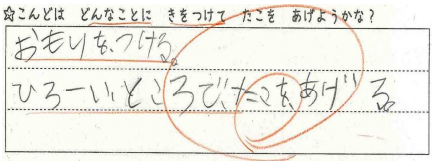
４．教え合ったり話し合ったりした意見をもとに，２回目のたこあげでやりたいコツを考え，ワークシートに書く。（言語活動②）

○交流した意見をさらに深めるために，上手にたこがあがっている様子のビデオ映像を見せ，自分の考えに自信をもたせたり，参考にさせたりした。板書についても参考にさせた。

《児童のワークシート》







４　考察　本時の授業の成果（○）と課題（●）

○　自分で考えた「上手なたこあげのコツ」を，グループや全体で交流させる言語活動を取り入れることにより，自分の考えに自信をもつことができた児童が多かった。自分の考えをしっかりもったことで，２回目のたこあげでやりたいコツを，自分の言葉で表現できた児童が，２９人中２８人と多く，書く活動にもつながったと考える。また，新たなたこあげのコツを発見をすることができた児童も多かった。

●　上述の言語活動の中で，２９人中８人の児童が，「広いところでたこあげをする。」などのような，自然事象への気づき以外の面での「上手なたこあげのコツ」を書いていた。本実践は，理科教育につながる入門段階として単元構成をしたものであったので，手立ての不十分さを感じた。「風の向きによって，たこのあがり方が違う。」などのように，児童が自然事象に目を向けて考えることができるような指導や支援の工夫の必要性を感じた。

《児童が作成したポスター》